

元)二月大舉蕃漢兵北伐、厥制曰、……況默啜之子右金吾衛大將軍右賢王墨特勤、逾輪自拔于亂、頃投于國、今不計其先人之僭、復加以右賢之寵」と見ゆ。

○兼錫絹帛衣服、以充糜用、荆枝再合、望花萼之相輝堂棣未華、遽風霜之凋墜、春秋廿有五。

此等の數句は今特に説明の要を見ず、只だ天子絹帛を給ひて婚資に充て、兄右賢王の邸に歸らしめし後、遽かに壽廿五を以て、公主の薨去せしを言へるにすぎず。

○大唐開元十一年歲次癸亥六月十一日薨於京師右賢王懷德坊之第。

公主の死は開元十一年六月十一日なりと云ふ、されば默棘連との婚約は此の年もしくは前年のことなるべし、此の事件は唐と突厥との關係の上より甚だ興味ある問題なりとす、新唐書突厥傳によれば、「開元八年冬、御史大夫王峻爲朔方大總管、奏請西徵拔悉密、東發奚契丹兩蕃、以明年秋初、引朔方兵、數道俱入、掩突厥牙帳於稽落河上、……九月秋、拔悉密果臨突厥牙帳、而王峻兵及兩蕃未至、拔悉密懼而引退、……走投北庭、城陷不得入、盡爲突厥所擒、……小殺由是大振、盡有默啜之衆、俄又遣使請和、乞與玄宗爲子、上許之、仍請尙公主、但厚賜而遣之」と、即ち默棘連即位以來唐と相敵視せしが、開元九年唐が一舉にして之を滅さんとせし計畫は、却りて突厥の勢を盛ならしむるに至れり、然も戦勝の突厥は俄かに使を遣はして和親を求むるの策に出でたりしなり、此の事は舊唐書には八年の事件として記さるれど、和親の使の至りしことは、同じく明年即ち九年の事として兩史相一致す